カトリック教報

カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852－8113
長崎市上野町10－34
カトリックセンター内
TEL 095－843－3869
FAX 095－843－3417
振替口座 01880－5－2699
発行人
山田良秋
印刷所
株式会社 藤木博英社

浦上四番崩れ150周年記念祭

生きた道を語り継ごう

保護の聖人行列とミサ

キリシタン禁教令下に起こった、浦上四番崩れ（検挙事件）の始まりから今年7月15日で150年。この節目を記念し、長崎大司教区は7月16日(日)、「先祖が求めた『信仰の自由』を思い起こし、生きた道を語り継ごう」をテーマに記念祭を行った。長崎中地区評議会運営。

13時。4つの秘密教会を辿る行列があった。本原方面は辻町の聖ヨゼフ堂跡を出発して聖マリア堂跡へ、大橋方面は同町のサンタ・クララ教会跡から聖フランシスコ・ザベリオ堂跡を経由。二つの行列は秘密教会の保護の聖人旗を掲げ、ロザリオの祈りを唱えながら浦上教会へと向かった。到着後は聖堂内で、浦上四番崩れに関する説明を聞き、スクリーンの映像を観て、歴史を振り返った。

14時からのミサには横浜教区の梅村昌弘司教らも参加。約30人の司祭団を合わせ、計1000人余の信者らが共に祈りをささげた。主司式を務めた高見三明大司教はミサの初めに、「信仰の感覚が鈍くなり、信仰の伝達と宣教に困難を感じている私たちが、信仰の喜びに目覚め、それを進んで証しできるよう知恵と勇気のたまものをお与えください」と祈願した。

大司教は説教の中で、キリスト教の伝来から浦上四番崩れに至るまでの歴史を話し、その中で、「キリシタンたちは弾圧に対して、組織（帳方、水方、聞き役、触れ役）を作って信仰を守り」、「『組』と呼ばれたさまざまな信心会に属する人たちは、互いに信仰と生活を支え合い、殉教する心構えを養った」と触れた。

聖ヨゼフ堂跡での出発式

最後に、「この記念祭が、これから先の私たちの、信仰者としての生き方を考える機会となりますように。私たちの信仰の歩みの上に神様の導きと祝福をお祈りいたしましょう」と語った。

平和祈願祭

神よ わたしをあなたの
平和のために用いてください

8月9日(水) 18時 ミサ　浦上教会
20時 たいまつ行列
※雨天中止
浦上教会～平和公園

信仰を思い、信仰を深めて

鷹島で殉教400年記念ミサ

大村湾の鷹島で1617年に殉教した信者らをたたえ、時津小教区（主任岡 秋美師）は6月11日（日）殉教400年を記念するミサを高見三明大司教の主司式、8人の司祭の共同司式により現地でささげた（写真）。

記念祭実行委員会のメンバーの一人で、浦上教会信徒の本田秀暢（ひでのぶ）さんは、「萩に流された曽祖母ら先祖のこともあって、記念祭に対する思い入れがありました。大司教様のお話にもありましたが、来年2018年は〝旅〟の始まりの年。またこの1年間の過ごし方がとても大事だと思っています。今を生きる私たちには、先祖のことを忘れず、信仰を守り伝えていく務めがある。ミサに参加して、より強い気持ちになりました。たくさんの方と祈りができ、うれしかった」と話した。

1617年6月1日、迫害下に信徒を励まし続けたドミニコ会のナワレト師と聖アウグスチノ修道会のエルナンド師、また、伝道師レオ田中が共に鷹島で斬首された。同年10月1日には、先の2人の司祭をかくまった宿主2人が長崎港の高鉾島で殉教。5人は、今年7月7日に列福150周年を迎えた日本二〇五福者にあげられている。

この日は時津教会をはじめ、殉教者にゆかりのある城山や神ノ島など各地の教会の信者ら計170人余が船で鷹島に渡った。木漏れ日が差し、風がそよぐ殉教地でのミサに高見大司教は、「今日、私たちは大きな恵みをいただくと思います」と語り、殉教者の信仰を思い、信仰をさらに深めて人々に伝えていくことができるようにと説教した。

時津小教区では無人島の鷹島に年2回、小船で渡り、清掃とミサを行っている。評議会議長の石橋賢次さんは、「今日のような大勢でのミサは初めて。1年前に企画し、いろいろな方の協力をいただきながら小教区全体でさまざまな課題を乗り越えてきました。直前まで天気も心配されていましたが、何とか現地でやりたいと思っていたので本当に良かった。神様の恵みがあったという感じがしています」と振り返った。

★★★

日本二〇五福者は、1617年から32年までの間に殉教した信者ら。福者のうちの2人、大村領で最初に殉教したフランシスコ会のペドロ師とイエズス会のマシャド師の殉教400年を記念するミサは、殉教の日5月22日に、植松・水主町両小教区の共催によって帯取で行われた。諫早、島原両小教区の主任司祭を含む4人の司祭が共同司式し、各地から集まった多くの人々が祈りをささげた。

記念事業などの承認も

教区顧問会

教区顧問会が6月20日(火)、大司教館で開催された。まず、2016年度収支決算書案（本紙3、4面参照）が審議され、同決算書として承認された。

引き続き、褥崎教会献堂50周年記念事業として行われる教会改修、駐車場整備をはじめ、小教区規模で行われる境内地および境内建物の工事について審議され、承認された。また、浜脇教会堂基礎補修工事は2021年に迎える「牢屋の窄」殉教150周年記念事業として行われるが、限界集落化が進み29世帯となった浜脇小教区にとって1千万円の工事費の負担は厳しく、半額の500万円については寄付を呼び掛けることとしている。顧問会としては、この寄付の呼び掛けも合わせて了承した。また、旧大司教館に開設予定の博物館の正式名称を『大浦天主堂・キリシタン博物館』とすることを決定した。来年4月開館予定。

その他、懸案となっている引退司祭の施設やそれに伴う経済的な課題について審議した。

ミカエル 山川 忠師が引退

48年にわたって司牧に専念されたミカエル山川忠師が、今年7月1日付で引退された。これまでの奉仕に感謝を表し、これからの健康を祈りたい。

略歴　1942年9月17日五島市生まれ。水ノ浦教会出身。69年3月19日司祭叙階。同年青砂ヶ浦助任、浦上助任、73年山田主任、79年浜串主任、84年貝津主任、87年香焼主任、95年水主町主任、2004年浦頭主任、05年俵町主任、08年神ノ島主任、11年教区本部事務局、15年上神崎主任。17年4月30日付で伊万里トラピスチヌ修道院に赴任していた。

連載企画（全5回）

150周年を記念する 浦上四番崩れ ― 第1回

純心聖母会　片岡千鶴子

はじめに

「信徒発見」の日に、大浦天主堂で密やかに表明した信仰を、今度は幕府に、次いで明治維新政府に対して公に表明したことによって、長崎地方に最後の迫害が起こりました。

その受難は1867年から6年間に及ぶもので、地域によって浦上四番崩れ、五島崩れ、木場崩れなどと呼ばれています。

本稿では「浦上四番崩れ」を取り上げ、先祖たちが信仰と良心の自由を守って貫き通した不屈の精神が、欧米の世論を動かし、ついに「キリシタン禁制の高札」が撤去され、わが国に信教自由への道が開かれた歩みを思い起こします。

一、迫害の前夜

浦上村全村民の信仰表明

「信徒発見」後、浦上村には生き生きとした信仰生活が繰り広げられました。ローマのパーパから遣わされたパードレを迎えたのです。教えを聞き、秘跡を受けられるように、秘密の教会を4カ所につくりました。浦上に潜んだロカイン神父様の熱心な指導で、信徒発見の翌年の復活祭までに400人以上の信徒が秘密教会で初聖体を受けました。

しかし、教理を学び、信仰の喜びが増すとともに、心を痛めることがありました。「絵踏」は開国以後廃止されましたが、「寺請制度」が続いています。幸いなことに「信徒発見」後、浦上には死者が一人も出ませんでした。しかし、信徒たちは、早晩、この問題に決着をつける時が来るのを覚悟していました。1867年4月、本原郷の茂吉の死に始まって次々と死者が出ました。覚悟した信徒たちは聖徳寺に知らせず、キリシタンの葬式を行いました。「自葬事件」です。心配した庄屋の仲介も断り、お寺と縁を切りたいと「申立書」を浦上村四郷の戸主の連名を添えて差し出したのです。

「私共は先祖から申し伝えの天主教の他は何宗にても後生の助けはないと信じています。御大法なので致し方なく聖徳寺に引導を頼み、ウワノソラで受けて来ました。しかし、こんにちフランス寺で教えの話を聞くと先祖伝来の教えと一致いたしますので、熱心に信仰しております。アニマの助けになる教えは他にありません。御大法に背き、厳罰を受けようとも、今後は天主教を信じ、旦那寺の引導は受けず埋葬することをお許しくださるようお願い申し上げます」

庄屋の高谷官十郎は仰天します。権現様以来の祖法に百姓が盾突いたのです。驚き慌てて代官高木作右衛門に届け、代官は長崎奉行のもとに走り、奉行は江戸に向かいました。その間、奉行所は密偵を浦上に潜入させてブラックリストを作成、秘密教会も調べ上げました。ご禁制のキリシタンの信仰を公にした信徒たちの逮捕は時間の問題となりました。

（続く）

ほしかげ

上五島の小教区に赴任していた時、8月に巡回教会での主日の前晩ミサに行った帰り、ある地区で煌々と明かりを照らす様子に驚いたことがある。そこは仏教徒の多く住む地区であった。詳しいことは分からないが、墓地を明るく照らして魂を迎えているのだそうだ▲カトリック教会ではそのような習慣を聞いたことはないが、明るく照らされた場所を見れば、近づいてみようと思うのが人間というものだろう。真っ暗な中に提灯、真っ暗な中に松明。闇の中の光は、生きている人、すでに亡くなった人の思いを結び合わせるきっかけになる▲暑いさなかに生花を手にバスから降りるご婦人を見かけた。バス停から教会は目の前だが、隣り合ってはいても墓地はもう少し先にある。墓に供える花を大事そうに抱えて行った婦人を見送りながら、こういう光景がいつまでも続いてほしいと思う。墓が近くても遠くても、足を運ぼうという気持ちがなければ教会の聖なる場所である墓地も祈る人の姿は絶えてしまう▲墓地管理費も大事だが、トボトボとではあっても祈りに来てくれる人が教会墓地を聖なる場所にしているのだと思う。夏の盛りに墓地へと急いでいたご婦人の姿が、わたしには「燃えて輝くともし火」として働いた洗礼者ヨハネに見えた。このような人がいる教会は、「闇を照らす教会」となるに違いない。（輝）

「これからの教会」考えるきっかけに

長崎教区の青年 アンケートに協力

「教会で若者の姿を見ない」かねてより、教会の将来を危惧する声は聞かれてきた。少子化に伴って青年世代が減少傾向にあるのは事実だが、教会に青年たちは確かにいて、活動に誠実に取り組んでいる。

世界のカトリック教会では、来年2018年に青年についてのシノドス（世界代表司教会議）、19年にワールドユースデー（世界青年の日）パナマ大会が開催される。フランシスコ教皇は、「（シノドスで）若者の皆さんが現代社会の課題のただ中で、どのように信仰を生きているかを話し合う予定」とし、「ワールドユースデー・パナマ大会への歩みとシノドスに向けた準備が密接に協力し合いながら進むよう望みます」（2017年『世界青年の日』教皇メッセージ）と語っている。ところで長崎教区では今年、6月18日に「第1回高見杯青年ソフトバレーボール大会」が実施された（5面に記事掲載）。また、11月3、4日には「第1回長崎青年の日」の集いが開催される。

これらを受けて広報委員会では、長崎教区の青年の思いや考えを少しでも知ろうとアンケートをまとめた。回答を寄せてくれたのは、20代、30代の青年の皆さん。回答の受けとめ方は人によってさまざまだと思うが、回答を通して見えてくる「教会の今の姿」から、「これからの教会」を共同体で考えるきっかけになることを願い、紹介する。（広報委員会）

『青年とともに』の会議で話し合う司祭と青年たち ＝6/23 浦上教会＝

①所属教会や信者のイメージは？ 文章または一文字で（その理由も）。

静かにお祈りする／入り浸る場所／良くも悪くも普通／「色」いろんなカラーを持った人がいて楽しい／家族や親せきのよう。小さい頃から教会に行けば接することが多く、昔から知っている／親。和気あいあいとしている／「優」みんな優しい／「家族」優しい。どんな神父様が来てもその神父様のカラーになれる。色に例えると「白」どんな色にもなれる／「堅」信仰を堅く守り伝えている。堅くて融通がきかず、若者が近づきにくい。

②「今の教会」「フランシスコ教皇様」「高見三明大司教様」のイメージは？

今の教会　保守派からの脱去中／信仰よりも日常を優先している／素晴らしい可能性を持っている／役員と一般信者の連携があまり取れていない／全体的に疲れている。教会も、信徒も。

教皇　より私たちのもとに近づき寄り添ってくださる／厳しい／あまり存じ上げない／厳か／笑顔が素敵。（「変なことにとらわれている」と語っていた年始の記事から）神父様たちのことをずばっと的確に言っていて、サバサバしていていい／笑った顔が優しい／行動力、情報発信力がすごい。

大司教　実はフランクな人柄と聞いているが堅いイメージがある（それが長崎教区にはマッチしているとも思う）／学者／笑顔が素敵／厳か／教皇様、大司教様は雲の上の存在／こだわりが強い。博識。もう少し親近感があったらいいな／あまり関わりがない、遠い存在／まじめ。

3つとも　父

③現在、教会のどのような活動に参加していますか。また、青年の活動についてどう感じていますか。

活動　地区青年会で青年ミサやクリスマス会などを企画・運営、青年のつながりを広める活動をしている／典礼委員会、香部屋係、「ともにこの道を」分かち合い／バザーや復活祭のたまご作りなどの手伝い／奉仕活動／典礼奉仕、行事への参加／小教区では典礼奉仕、バザー、復活のゆでたまご作り、灰の水曜日用の枝焼き。地区では各地の典礼奉仕、施設へのボランティア、雲仙・大村殉教祭の手伝い／所属教会では月1回の典礼奉仕。バザー、復活祭、クリスマスなどでの奉仕。地区青年会では雲仙殉教祭での仕事、ボランティア活動（社会福祉施設に年2～3回）、他の地区の教会に出向いての典礼奉仕／小教区評議会。青少年委員会 青年とともに（会議）。典礼奉仕。教会学校。教区・小教区行事。

どう感じている　楽しいが、「青年」の限界地点／広がりがない／奉仕することで誰かの役に立っていればうれしい／青年の活動については地区ごとに差を感じる／青年会は、教会の中ではあまり目立たない存在だけど、その青年たちが年をとり、20年、30年先の教会を支える大切な存在だと思う。神父様や各教会の大人の人たちは、「うちの教会は、若い人いないから」「青年なんておらんよ」と言うけれど、もっと青年の発掘に力を入れた方がいいと思う。今いる青年だけに青年会の存続を任せるのは、かわいそう。逆に教区や神父様は青年会の存続についてどう考えているのか知りたい／あまり面白くない。

④カトリック信者でよかったですか。そう思った瞬間、思わなかった瞬間は？ また、教会の好きなところ（魅力）、好きではないところは？

よかったか　信者ではないことがなかったので分からない／よかったと思ったのは、辛いときに神様の存在を感じた時。思わなかったのは、イベントが面倒くさいと感じた時／青年部での活動を通して友人が増え、人脈が広がったことがよかった。青年を増やし青年部を盛り上げることを青年のみに任せる信者は快く思わない／信者としていろんな人に出会えたこと／信者には生まれた時からのため良い良くないと考えたことはなく当たり前になっている。しかし、教会に行けばみんなと交流できる。家族みたい／自分をカトリック信者として考えたことがない。信者だからって考えることがナンセンスだと思う。いろんな人がいる中の一人／同じ信仰を持つ仲間に多く出会えたことはよかったが、嫌なことも多々あった。青年会の活動をして、教会の内部にも多く関わることになったが、信者がみんないい人、優しい人ではないことがわかった。雲仙殉教祭で特に思うことは、殉教者の思いを感じ、共に祈る場なのに、自分さえ楽できればいいと思っている人がいる（駐車場の問題など）。カトリックだから偉いという人も多い／中高生の頃はカトリック信者であることをあまり良く思ってなかった。

好き　教区外でも教会に行けば受け入れてもらえるのはありがたい／自分の信じるものを、そう素直に発言できる／人が明るくて優しい。信者になれてよかったといつも思う／教会の魅力は心が研ぎ澄まされる感じがすること／小さい頃から学んでいた友達が家族みたい／教会の聖堂の静かなところ／さまざまな年齢層・職種の人と出会えるところ。

好きではない　他の人に理解してもらえない／信仰から離れた所で起こること／自分の意見を押し通す、いがみ合いなどがあるところ／団体になるとどうしても決まりや上下関係ができてしまうので、純粋な気持ちがないところ／青年会の中でもあるが、自分の意見を言わない人が多い。相手を思って「反対意見を言わない優しさ」らしいが、自分の保守のためだと感じる。

⑤教会で感動した出来事・忘れられない出来事などは？

全国の青年イベント（ネットワークミーティング）でさまざまな青年が集って分かち合えていること。聖歌班や朗読班などを担当し、みんなで一つのミサをつくりあげたことは記憶に残っている／スペインのニュースで、浜辺の教皇ミサを見た時／子どもを亡くした人が救いを求めて、（ある他教区の）青年のクリスマスミサに来ていた時／主任神父様の説教／祖父の葬式の際にたくさんの信者たちが集まってくださり、信者同士のつながりを大切に思う気持ちに感動した／クリスマスのイルミネーション／青年の集まりで大勢の方が集まり交流できたこと／教会学校でシスターに教えていただいたこと。ご聖体をもらって飲み込んでいる時が一番イエス様が近くにいる時だと教えられた。その時はいろんなことを祈るような癖がついている／友人のお母様の葬儀ミサの時。悲しい気持ちの中に優しい思いがあふれるいいミサだった。確かに悲しかったけど、お葬式がこんなに素敵な式ってことを初めて感じたミサだった。

⑥神や教会、仲間の存在はあなたにとってどのようなものですか。これからの教会に期待・希望することは？ そのために今できること、必要だと感じていることは？

心の中で思い、話せば、神がいてくださるし、教会に行けば、私という存在を受け入れてもらえる。そして、仲間はどこにいても気にかけてもらえる。だから互いに寄り添えることができる教会によりなればと思う／家族のような存在。もっとオープンになる。他の人（信者でない人、教会に来ない信者）に知ってもらう、理解してもらう。保守思考からの脱去が必要／神や教会は救いであり、そうなり、そうあり続けてほしい。そのために教会全体での刷新が必要／教会は大切な学びの場であり、癒やしの場／教会や仲間はとても大切だと思う。小さい子どもたちにとって教会が楽しい場所、大切な場所として思ってもらうことが必要／

神や教会、仲間の存在は、一つの道。教会の行事に参加していくこと／家族のようなもの。下の人の声も聴いてほしい。そのためには、はじめから否定しないことが必要で、自分の心にもゆとりを持ち、話をする必要がある／小さい頃から自分がされて嫌なことを人にしないということを自分の中に入れて考えている。神様の勉強の中で考えたのかわからないが。何でも大きくなり過ぎると、力、お金とかからみ過ぎて本質を忘れてしまうので、教会もはじめに戻って、人に優しく、みんな心が豊かになるようにしてもらいたい／祈りを感じる場所。このままでは教会の存続自体が危ぶまれる。今の状況を確認し、私たちができることから教会の奉仕のために何か始めるべき。たくさんの行事をするのではなく、小教区（教会）の活性化に各信徒同士考えて行動すべきだと思う。そのために今できること、必要だと感じていることは、小教区での活動の強化。毎日のミサの充実／心のよりどころ、なくてはならないもの。これまでの少し堅苦しい考え方を変え、現社会に柔軟に対応できるようになると良いと思う。

⑦長崎の好きな場所（教会や巡礼地、その他）とその理由を教えてください。

ビルの間をぬって見える中町教会。なかなかそのような教会は他にはない。不思議な空間／海の見える場所／本河内のルルド。落ち着ける／浦上天主堂。後ろのパイプオルガンの迫力がとても好き／ステンドグラスから木漏れる光／一番印象に残っているのは牢屋の窄。何も知らず巡礼し、現地で信者の方に歴史を話してもらい、昔あったことを知ることができた／地元。家。落ち着くから／下五島の教会。島中にたくさんの教会があって、どこもきれいだった／上五島の教会。歴史もあるし、静かできれいだから。

⑧長崎の教会の歴史（迫害・潜伏・信徒発見など）や原爆のことを思うとき、長崎の教会の使命は何だと思いますか。

これらの事をまず「知る」必要がある。そして、守るだけではなく、伝え広げることが必要／そこに在ること、在り続けること／信仰を守り、伝える／これまで信仰を守ってきた方々、これから信仰に入る方々、みんながそれぞれの信仰の在り方を尊重し大切にすること／教会の使命としては歴史の事実を守っていくこと／信仰／まずは知ってもらうこと、そして伝えていくこと／あまり長崎の教会の使命とか思わず、大きい広い目でみて物事を考えていくべき／もっと勉強し、歴史や時代背景を自分で考え伝えることが必要だ。知らないことが多すぎる／自ら学び、伝えること。

⑨日頃、思っていること、協力を願っていることなどありましたら教えてください（『カトリック教報』へのご意見も）。

無関心であることがつながりの希薄さを生み、昨今の教会の中で起きていると思う。その無関心さを解消する手立てはないものか／教会に来ない学生（高校生以下のすべて）や若者や（特に）その親をどうにかして教会に呼び戻してほしい／信者個人たち他の人を尊重し、周りの人からどのように見られているのかをもっと意識して行動するべき／青年が少ない／信者、信者でない方関係なく、宗教、人種関係なく生きる世界は難しいと思うが、自分自身小さいところからその気持ちを持ちたいと思っている／もっと青年会の活動を多くの信徒の皆さんに知ってもらいたい。カトリック教報に、行事（青年会の）お知らせを事前に載せてほしい。そうすれば、参加する人がいるかも。

※表現を一部編集して掲載しました。

アンケート調査に協力してくださった皆様、ありがとうございました。

2016年度決算に関する報告　カトリック長崎大司教区

〔収入の部〕

科　目	決算額
1．経常収入の部	436,627,322
教区費	124,340,643
信　徒	111,565,643
司　祭	7,425,000
修道会	5,350,000
特定献金	30,954,032
神学生養成援助費（封筒）	10,628,561
世界広報の日献金	2,136,136
聖ペトロ使徒座への献金	6,485,939
世界難民移住移動者の日献金	2,372,841
世界宣教の日献金	2,181,304
宣教地召命促進の日献金	2,868,085
世界こども助け合いの日献金	4,281,166
特別献金	25,990,633
寄付金	12,748,694
献金収入（本部関係）	12,984,789
ミサ奉納金（ビナチオ・トリナチオ）	257,150
諸委員会活動費	4,724,970
(1) 信仰養成部	**1,012,944**
信仰教育委員会	169,658
生涯養成委員会	842,600
青少年委員会	686
信仰養成部	0
(2) 福音化推進部	**702,791**
人権委員会	0
福祉委員会	0
平和推進委員会	702,791
エキュメニズム・諸宗教委員会	0
福音化推進部	0
(3) 教会奉仕者等養成部	**0**
教会奉仕者養成委員会	0
召命委員会	0
(4) 典礼委員会	**341,154**
(5) 小共同体推進室	**72,900**
(6) 家庭委員会	**786,249**
(7) 広報委員会	**1,598,535**
(8) 教区本部事務局	**210,397**
(9) 教会歴史文化遺産評議会	**0**
その他の収入	250,617,044
受取利息	717
非課税事業収入	6,452,780
小教区拠出金	223,533,872
雑収入	18,825,925
司祭年金繰入金収入	1,803,750
2．財務収入の部	113,043,670
その他の財務収入	100,000,000
国宝保存財務資金	100,000,000
その他	13,043,670
預り金等収支差額	13,043,670
3．前年度繰越金	49,284,347
収入の部合計	598,955,339

〔支出の部〕

科　目	決算額
1．経常支出の部	502,989,490
宗教活動費	3,755,696
祭儀費	172,437
助成金（小教区）	1,798,627
教区評議会	1,784,632
諸委員会活動費	22,420,850
(1) 信仰養成部	**3,019,598**
信仰教育委員会	358,627
生涯養成委員会	1,964,018
青少年委員会	615,023
信仰養成部	81,930
(2) 福音化推進部	**4,732,752**
人権委員会	2,035,750
福祉委員会	84,820
平和推進委員会	2,381,693
エキュメニズム・諸宗教委員会	210,269
福音化推進部	20,220
(3) 教会奉仕者等養成部	**1,069,574**
教会奉仕者養成委員会	130,242
召命委員会	939,332
(4) 典礼委員会	**996,746**
(5) 小共同体推進室	**0**
(6) 家庭委員会	**1,051,813**
(7) 広報委員会	**5,878,151**
(8) 教区本部事務局	**2,025,080**
(9) 教会歴史文化遺産評議会	**3,647,136**
負担金	22,030,151
中央協議会送金	14,523,058
使徒座送金	6,907,093
心のともしび	600,000
神学生養成費	44,685,361
日本カトリック神学院	23,827,863
長崎カトリック神学院	10,000,000
福岡コレジオ	10,220,000
大神学生諸経費	637,498
司祭生涯養成費	4,425,702
黙想研修会	3,925,702
海外留学費	500,000
不動産管理費	3,203,244
管理費	548,224
租税公課	2,655,020
人件費	321,110,791
聖職者（本部関係）	28,280,720
聖職者（小教区）	170,270,000
引退司祭	16,597,720
職員（本部関係）	55,343,451
職員（小教区）	50,618,900
福利厚生費	39,851,623
法定福利費（本部）	31,451,915
法定福利費（小教区）	2,644,972
福利厚生費	1,935,479
福利厚生費（医療費）	2,350,507
医療共済制度（カリス）	1,468,750
維持管理費	18,779,311
大司教館	13,614,786
カトリックセンター（管理部門）	5,164,525
事務費	14,502,389
教区管理費	13,460,881
法人事務所	442,364
長崎教会管区裁判所	599,144

科　目	決算額
その他の支出	7,616,801
退職引当金繰入支出	2,245,000
非課税事業支出	5,371,801
雑費	607,571
2．財務支出の部	3,017,861
財務支出	17,861
利子支払（借入金）	17,861
積立金支出	3,000,000
大司教活動資金	3,000,000
3．次年度繰越金	92,947,988
支出の部合計	598,955,339

カトリックセンター事業部門

〔収入の部〕

科　目	決算額
宿泊収入	38,491,348
会議室収入	1,705,700
レストラン収入	7,616,370
司祭食事収入	3,216,000
売店収入	324,609
営業雑収入	667,366
受取利息収入	343
雑収入	80,590
預り金等収支差額	153,556
前年度繰越金	16,854,447
収入の部合計	69,110,329

〔支出の部〕

科　目	決算額
食材仕入支出	4,639,084
司祭食材仕入支出	1,167,707
売店仕入支出	438,398
消耗品費	1,670,627
通信費	305,045
旅費交通費	19,940
水道光熱費	4,595,154
接待交際費	13,440
諸会費	98,000
車輌費	175,493
修繕費	129,924
保険料	463,670
保健衛生費	1,730,532
公租公課	5,630,656
リース料	301,233
広告宣伝費	39,720
支払手数料	1,596,828
雑費	1,960,571
寄付金	360,000
研修費	80,311
給料手当	22,488,320
福利厚生費	553,237
法定福利費	1,936,581
備品取得支出	2,755,080
退職引当金預金支出	1,330,400
次年度繰越金	14,630,378
支出の部合計	69,110,329

2017年 四旬節愛の献金

総額 6，3 1 5，9 7 8円（6/28現在）

上記献金の他、直接カリタスジャパンへご送金いただいている分もあります。皆様のご支援、ご協力に心から感謝申し上げます。

カリタスジャパン長崎支部

2016年度決算に関する報告　72小教区決算集計表

〔収入の部〕

科　目	決算額
1．経常収入の部	1,074,977,671
献金収入	788,929,000
教会維持費	404,397,495
ミサ献金	111,691,532
ミサ奉納金	186,218,784
祭儀献金	56,788,670
その他の献金	29,832,519
寄付金収入	62,924,029
一般寄付金	36,009,039
指定寄付金	4,789,568
司祭寄付金	3,551,236
修道会寄付金	750,000
その他の寄付金	17,824,186
その他の収入	61,538,332
教区補助金収入	1,725,373
受取利息収入	1,146,963
墓地納骨堂管理費収入	7,818,261
行事収入	6,700,943
非課税事業収入	3,077,412
雑収入	41,069,380
預り金収入	161,586,310
教区費	113,009,858
神学生養成援助費（封筒）	10,167,466
世界こども助け合いの日献金	2,391,169
世界広報の日献金	2,221,641
聖ペトロ使徒座への献金	2,356,889
世界難民移住移動者の日献金	2,278,158
世界宣教の日献金	2,115,710
宣教地召命促進の日献金	2,181,671
特別献金	1,205,540
預り金	1,488,539
一菜募金	5,916,479
クリスマス募金	4,459,130
カリタスジャパン募金	4,929,007
その他の募金	6,865,053
2．財務収入の部	424,104,498
内部借入金収入	146,000,000
特別目的預金取崩収入	52,197,070
境内地拡張費積立金収入	8,718,200
境内建物建設増改築積立金収入	86,150,606
修理費積立金収入	87,525,483
雑収入	24,194,145
教会建設積立繰越金受入	18,818,994
小教区互助基金	500,000
3．前年度繰越金	717,577,402
収入の部合計	2,216,659,571

〔支出の部〕

科　目	決算額
1．経常支出の部	986,546,767
小計Ⅰ	821,118,481
祭儀費	44,160,840
教化費	19,753,252
教育養成費	29,560,065
図書費	6,232,022
出版刊行費	7,983,410
行事費	42,190,859
負担金	24,722,974
維持管理費	60,742,181
備品修繕費	24,337,348
保守管理費	17,614,634
墓地管理費	5,570,533
保険料	28,213,723
給与手当	231,998,403
雑給与	27,630,537
退職金	2,115,000
福利厚生費	10,794,448
法定福利費	4,384,042
会議費	3,827,426
消耗品費	21,863,076
器具備品費	7,578,051
リース料	13,608,183
通信費	13,316,268
旅費交通費	14,157,893
自動車諸費	18,148,504
水道光熱費	76,886,536
接待交際費	16,963,693
公租公課	853,295
支払利息	58,740
補助金支出	16,778,053
支払手数料	355,009
非課税事業支出	939,509
雑費	22,039,974
修道院献金	5,740,000
小計Ⅱ（預り金支出）	165,428,286
教区費	111,934,976
神学生養成援助費（封筒）	10,154,816
世界こども助け合いの日献金	2,411,283
世界広報の日献金	2,210,063
聖ペトロ使徒座への献金	2,326,641
世界難民移住移動者の日献金	2,277,997
世界宣教の日献金	2,140,387
宣教地召命促進の日献金	2,182,524
特別献金	6,470,392
預り金	1,687,192
一菜募金	6,011,828
クリスマス募金	4,503,118
カリタスジャパン募金	4,790,103
その他の募金	6,326,966
2．財務支出の部	451,477,853
内部借入金返済支出	173,997,080
外部借入金返済支出	8,059,075
土地取得支出	1,903,200
建物取得支出	47,427,984
構築物購入支出	28,521,676
器具備品購入支出	18,937,793
特別目的預金積立支出	162,414,248
境内建物建設増改築基金	7,433,375
小教区互助基金	2,500,000
その他の支出	283,422
3．次年度繰越金	778,634,951
支出の部合計	2,216,659,571

	2015年度	2016年度
世帯数	18,013	18,091
①維持費／世帯数／月	1,885	1,863
②教区費／世帯数／月	534	521
③教区費／維持費（%）	28.3	27.9
④ミサ奉納金／世帯数／月	830	858
⑤ミサ献金／世帯数／月	546	514

大司教館で司祭研修会

教区の活動方針と宗教改革500年記念

6月19日（月）大司教館で司祭研修会が行われた。午前は、教区シノドスをうけて今年5月の教区評議会総会で採択された活動方針、「カテキスタ養成・小共同体づくり・ミゼリコルディア長崎の発足」この三つの柱について説明を受けた。

小共同体作りを説明した本部事務局長下窄英知師の話にあるように、教区の三つの方針は密接に関連している。小共同体（班集会）は小教区活動の受け皿である。ミゼリコルディア長崎の活動が愛の行いを行きわたらせる。カテキスタ（要理教師）の養成が秘跡とみことばに生かされる教会へと成長する鍵となる。「参加し・交わり・宣教する長崎教区」を実現するため、これら三本の柱を司祭たちはよく理解しなければならない。

午後は「宗教改革500年共同記念行事」について、日本福音ルーテル教会の事務局長白川道生牧師から企画提案の背景、計画概要、今後の広がりと広報について説明を受けた。宗教改革から500年を経て、今求められていることは、単なる振り返りではなく、歴史から継承し、生かすことのできるものを発見し、活用していくこと。そうして導き出されたテーマが「平和を実現する人は幸い」であった。日本カトリック司教協議会と日本福音ルーテル教会は、2017年11月23日（木）長崎での記念行事を集大成とし、共に祈り、対話することで合意。

両教会が平和・和解の実現に向かって歩みだすことは、新たな対立や争いを生み出している現代社会に広く問い掛けることにもなる。

韓国の友人たちも祝福

聖母の騎士修道女会 初誓願式

6月13日（火）けがれなき聖母の騎士聖フランシスコ修道女会本部修道院（諫早市小長井町）で、パドバの聖アントニオの祝日に高見三明大司教司式のもと、12人の司祭との共同司式で初誓願宣立式が行われた。

受式者の出身であるプサン教区の司祭をはじめ、韓国や日本各地の友人もお祝いに駆け付け、シスターのこれからの修道生活の上に神様の祝福があるようにと共に祈った。

〈宣立者名〉
シルヴィア　マリア　朴（パク）　仁得（イントク）
（韓国・プサン教区司教座中央教会出身）

お知らせ

〈FAX番号の変更〉
●諫早教会の新FAX番号は、0957・23・2077です。電話番号は変更ありません。

〈住所の変更〉
●宮川俊行師の住所が変わりました。新住所は、「〒851・2206　長崎市三京町811・33　ケアハウスかおり」です。

ぶどう園

▼原爆殉難者慰霊祭　8月8日㈫19時、長崎市松山町原爆落下中心地。雨天＝カトリックセンター。

▼平和祈願祭　8月9日㈬18時、浦上教会でミサ。20時、平和公園へたいまつ行列（雨天中止）。

▼聖母平和祈願祭　8月15日㈫13時、アルカスSASEBO。

▼大村殉教祭　9月3日㈰13時、シーハットおおむら。

▼教区結婚講座　9月5日～11月7日の毎週火曜日の連続10回。19時～21時。カトリックセンター。問合先・教区家庭委員会。TEL095・842・4450

▼福者カミロ・コンスタンツォ殉教祭　9月17日㈰14時、田平町焼罪史跡公園。雨天時、田平教会。

感謝

―香典返し―

長崎大司教区
●長田政昭様（早岐）
故マリア長田サツヨ様

長崎カトリック神学院
●田中正行様（浦上）
故マリア田中アサ子様
●相浦京子様（皆瀬）
故ヨゼフ木場豊光様

右の方々からご寄付・ご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

正しい人が苦しむのは

髙見大司教による公開聖書講座

教区生涯養成委員会は6月18日（日）13時から、2017年度公開聖書講座をカトリックセンターホールで開催した。今年は日曜日に行われたこともあり160人以上の司祭・修道者・信徒が受講した。

今回は髙見三明大司教様を講師に迎え、「正しい人が苦しむのはなぜ？―『ヨブ記』の答え」というテーマで話をしていただいた。ヨブ記とは正しい人であったヨブにふりかかる数々の災難、それをどのように受け止めたらいいのかと苦悶する姿を描いたもので、人間の苦しみの問題について取り扱った書物である。

髙見大司教様は「この大きな問題をこの講義だけで解決することは難しいです」と前置きした上で、ヨブ記を聖書学の専門的な視点で、また具体的な例をあげながら丁寧に説明してくださった。病気、災害、不条理の苦しみはわたしたち誰もが経験することで、ヨブ記のメッセージはそれらをどのように受け止めたらいいのかという問いへのヒントになったようだ。

生涯養成委員会では木曜日の聖書講座（全17回）を、また、年2回の公開聖書講座を毎年開催している。次回の公開聖書講座は10月29日（日）、講師に山下 敦神父様（大分教区）を予定している。

委員長　谷脇誠一郎

教区司祭の黙想会

5月に2会場で開催

長崎大司教館

5月16日（火）～19日（金）、大司教館で教区司祭黙想会の前半日程が行われ、鹿児島教区長の郡山健次郎司教に黙想指導を受けた。テーマは「教区司祭の霊性を求めて」。

教区司祭として叙階を受ける際、叙階の秘跡を受ける者は「はい」と答えて叙階の秘跡に臨む。かつてはラテン語の「アドスム（Adsum）」と答えた。この司祭に叙階された時の「アドスム」を保ち続ける。イエスの招きに「はい」と即答する。さらに修道会の共同生活と違う「孤独」と向き合いながらイエスの招きに答えていく生き方が教区司祭には必要になる。

マリアは神の招きにいつも「お言葉どおり、この身に成りますように」（ルカ1・38）と答えた。マリアの姿が、教区司祭に求められる「はい（アドスム）」の模範である。簡単に「はい」と言えない状況にあって、一貫して「はい」を通す。そこには祈りと、教皇フランシスコが勧めている「総合的回心」が必要になってくる。司祭として「アドスム」を忘れずに生涯をまっとうしたい。

田平教会　中田輝次

「宗教者の立ち位置」

全九研長崎大会、センターで開催

毎年、九州各県を巡って催されている「全九州人権確立研究集会」が5月30、31日の2日間にわたり6年ぶりに長崎で開催された。

初日は、総合体育館で熊本学園大学社会福祉学部教授花田昌宣（まさのり）さんから「熊本地震被災下の人権保障」と題して、行政のみに頼らない社会包摂的（ソーシャル・インクルージョン）な対応が求められていることなどが報告され、2000人以上の聴衆と共に話を聴いた。

「宗教者の現状と課題」の分科会はカトリックセンターホールで行われ、宗教者と一般参加者180人ほどが集った。二つの講演の中でも、浜崎眞実神父（鹿児島教区、写真円内）による「ハンセン病問題と宗教者のこれから」のテーマが語られ（写真）、カトリックがハンセン病当事者の治療や療養で貢献してきながらも、早期から問題となっていた国の「隔離」政策に対して患者と共に歩んでこなかった歴史を振り返った。

真宗大谷派、聖公会など宗派を超えて、謝罪表明が行われている中、関わり深い歴史を持ちながら誤った「立ち位置」で接してきた面もあるのではないか、本来のイエスの視座からも離れた教会の姿があったのではと、豊富な関係資料に裏付けされながらの話に、聴衆も今後の宗教者のあり方を分かち合うことができた。講演後、フロアからも感想や意見が交わされて高い関心度を会場の雰囲気で伺うことができた。

差別と偏見に苦しむ人々と宗教者はどうあるべきか、今回の大会では教会と福祉という面でも新しい視座を与えてくれる大会であった。

教区人権委員会　川口昭人

どんな時も祈りと励ましを

22回目の召命祈願ミサ

5月26日（金）、滑石教会で召命祈願ミサが行われた。今回で22回目となるこのミサには、長崎カトリック神学院・聖ルドヴィコ神学院・聖コルベ志願院の神学生や、お告げのマリア修道会・純心聖母会の志願生、またそれぞれの養成担当者や保護者たちを含め約150人が参加し、司祭・修道者の召命のために祈りをささげた。

ミサの説教を務めた松田 聡史師（長崎カトリック神学院院長）は、家族の祈りと励ましが神学生や志願生たちをどれだけ力づけることができるかと説く一方で、学生たちに対しては、困難や苦しみの時を「自らの時」として受け止め、それを乗り越える勇気と覚悟を祈り求めるようにと諭した。

ミサの終わりに、神学生と志願生たちの自己紹介が行われ、最後にミサの主司式をした髙見三明大司教が「派手なことを求めるのではなく、人目を引くことのない小さなことに忠実であるように」と勧めた。

イエズス会立山修道院

黙想会

教区司祭のための黙想会が5月23日（火）から26日（金）まで立山黙想の家で行われた。大分教区司祭、山下 敦師を説教師に迎え18人が参加した。

聖書に精通した説教師は、マルコ福音3章の12使徒の選定箇所を用いて、召命は「神の選び」から始まること、司祭職はまず主と「共にいるため」で、次にその主の「権能を受けて宣教につかわすため」であるという順番が重要であることを再確認させられた。

主と「共にいる」ことは「つながっていること」、何より十字架の主のもとに「留まること」が求められる。さもないと、神の思いより人間（自分）の思いを優先させるペトロ同様、主に「サタン引き下がれ」と叱責されることになる。主の前でなく後ろに下がり、弟子として従いながら、十字架のもとで留まり、神への信仰宣言の後に、主から頂いた権能を用いて宣教へ向かうよう、4福音記者の意図を的確に説明しながら、多くの黙想のテーマを頂いた。

個室で静かに黙想の時を過ごし、聖堂では共に祈り、食事や夜の司牧談義の分かち合いを通して、お互いが心も体もリフレッシュされた。お祈り、差し入れ、黙想の家の方々のご配慮に心から感謝して、それぞれ散会した。

カトリックセンター　中濱敬司

6/3～4 九州青年キャンプ

6月3日(土)～4日(日)に九州青年キャンプが福岡・浄水通教会で行われ、九州各地から50人余が集い、その内長崎からは青年6人とシスター2人が参加した。同キャンプは2000年から始まり、九州4教区の青年が毎年持ち回りで主催している。九州内のカトリック青年との出会い・交流・分かち合い・情報交換の場となっている。

今回のテーマは「かたろうよ×カトろうよ」で、博多弁の「かたろう（加わろう）」とカトリックの事を話そうよという意味が込められている。

初日はまずウォークラリーを行い、天神地下街を巡り歩き、問題を解いた。夕食後、各班で分かち合いをし、今回のテーマに沿って「自分の信仰度」について話をした。他の青年の信仰に対する思いを知り、新たな発見や良い振り返りとなった。夕の祈りはテゼの形でなされ、落ち着いた心で祈りをささげることができた。夜は、遅くまで語り明かした。

翌日は、宮原司教様主司式のもと、5人の司祭と地元の信徒の方々と共に聖霊降臨のミサにあずかり、祝った（写真）。

私は今回で7回目の参加であったが、同じ信仰を持つ仲間たちと分かち合いをしたことでまた新たな発見をすることができ、いろいろなことを知り、感じることができる楽しい交流の場となった。

次回は鹿児島教区主催で2018年8月に鹿児島市内で行われる予定となっている。

大野小教区・皆瀬教会　小原誠也

6月18日（日）長崎3地区の青年が中心となり大会を実施。青年たち自身が企画し、多くの青年がそれに応え、髙見大司教、司祭たちの協力のもと、全7地区から合わせて50人を超える参加者があった。今後も定期的に大会を開く予定。

地区・教区で、教区を越えて

青年の活動いろいろ

第1回長崎青年の日

これからの皆さんへ

11月3日(金)～4日(土)　長崎大司教館

※詳細は小教区の案内をご覧ください

5/28 北地区長杯 バドミントン大会

5月28日(日)昨年に続き長崎北地区長杯バドミントン大会が大司教館体育館で開催されました。参加した13人のメンバーでペアを組み、総当たりで対戦しました。ダブルスは、初めて組むパートナーと協力しながらプレーしないと、思うような試合にならないこともありましたが、楽しい時間はあっという間に過ぎてしまいました。

地区長の山脇 守神父様は会議のため参加されませんでしたが、私たちの指導司祭であるダニエル神父様をはじめ、何人かの神父様方が参加してくださいました。

今回北地区だけでなく他の地区の青年の方やカトリック信者でない方などの参加があり、地区の垣根を越え交流ができたことは、青年の輪、信仰の輪の広がりのいいきっかけになったと思います。

日頃私たち北地区青年会は、出張典礼奉仕活動やボランティア活動の他、週に一度のバドミントンで汗を流しています。苦手なことや好きなことといろいろありますが、できることから始めてみると、案外楽しい会なんだなぁっと思います。できなかったことができる喜びを一緒に分かち合う仲間の存在は、自分が考えているより大きいようです。

今回の大会を通して青年の輪が広がり、地区の垣根を越え、青年会の活動が活発になることを祈っています。

長崎北地区青年会長　今田亜希

新しい霊性、神との交わり

「食の力」講演会

長崎南地区家庭委員会は6月24日（土）東京教区の伊藤幸史神父様を講師に招き、カトリックセンターで講演会を開催しました（右の写真）。家庭委員会が「食の力」の講演会を行ったのは、昨年に続き今回で3回目。当日は雨にもかかわらず、牧師さんやカトリック信者でない娘さんと同伴の親子、赤ちゃんを連れたお嫁さんとお姑さん、夫婦、姉妹など約120人が参加し、時には涙しながら熱心に聴講しました。

翌25日（日）上五島地区でも同じテーマのもと青方教会聖堂（下の写真）で講演会を開催し、300人近い人が参加しました。当日は評議会と女性部の応援をいただき、活気に溢れ、上五島地区信徒の一致と絆を感じる集いとなりました。

講演会では日本の教会の現状として、20年間で1年にカトリックの洗礼を受けた人の数は40％減少し、受洗者数より帰天者数が上回るなど危機的状況である中で、これからは新しい霊性、神様との交わりが求められていると語られました。

その道筋の一つとして、講師の伊藤師自身がサバティカル中にアジア学院で学んだ農業と自然との触れ合いをもとに、「食」が大切であり、食は人と人、人と自然、人と社会とのつながりの中心に位置すること。教会や社会が「食」に注目する理由を、「現代の心の闇に若者や特に子どもたちが苦しみ、『自分なんかダメだ』と自己否定による薬物やアルコール・ギャンブルなどの依存症に目を向け、そうならないためには『私は大切、あなたも大切』という『生への肯定感』を伝え実感することが求められていることなど、日々の『食』は心の闇から救う希望の光である」とあげました。

さらにキリスト教において、ミサの食卓は信仰の中心。パンとぶどう酒というご聖体を大切にすることだけでなく、日々の生活の中で「食」を大切にすること。生きることは食べること、食べることは他の命をいただくことであり、紙芝居やビデオを使って分かりやすく説明されました。

また、聖書の中にはイエス様の食事に関する物語がたくさん語られていることやカトリックは食の宗教ともいえると、家庭での食の霊性について語られました。ご聖体をいただき、みことばをあじわいながら心を込めて食事を準備したいと思います。

（教区家庭委員会事務局）

みことばにふれて 139

Sr. ツェリナ・スキビツカ（けがれなき聖母の騎士聖フランシスコ修道女会）

あなたの御言葉は、わたしの道の光、わたしの歩みを照らす灯（詩編119編105節）

光がどんなに大切なものであるか、私たちはよく知っています。おそらく私たち誰もが体験していることですが、光が不足すると、夜に行動することはとても難しく、簡単な作業でさえも難しくなります。それに、もしも突然に、予期せず、家じゅうの全ての電気や、道路、町の通りの電気が消えてしまったとしたら、たしかに、恐れに捉われてしまうでしょう。道は見えず、危険な場所は分からず、何所へ行ったら良いのか、何をしたら良いのか分かりません。それ故、光の無い生活は困難であるということは分かります。突然の停電とか、もしもの時のために分かりやすい場所に、ロウソクや懐中電灯を備えておくことです。

ところで、霊的生活において起こりうる「霊的闇」に向けて、私たちの心の準備はいかがでしょうか？　私たち誰もが遅かれ、早かれ、それを体験するでしょう。何をしたら良いのか、どの道を選ぶか、祈ることが難しい…などなど。

「霊的闇の時」は易しいことではありません。しかし、そのような時をふさわしく過ごしているならば、祝福された時となるでしょう。では、自分の心が霊的砂漠、霊的闇という状態になった時のため、どのような準備をしたらよいでしょうか。その答えは「詩編119」に書かれています。そうです、この神の御言葉は私の人生の灯、光です。その御言葉は、私の歩みの一歩一歩を照らし、信仰の道を安全に歩むことができます。神の御言葉によって、私たちがふさわしい決断をすることを助けてくれますし、ますます深く、真実の神様の御顔を見ることができるようになります。しかしながら、私がその光を利用するために、どれだけの時間を見いだしていますか？　もしかしたら全く見いだしていないのでは…もしかしたら聖書は家の本棚の飾りとなっていないでしょうか？

私は、この稀有な愛の贈り物である神様自らの御言葉にもっと親しむことが良いと思います。とはいえ、聖書を読むということは決して易しいことではありません。特に旧約聖書を読むときは難しいです。多くの部分は私たちにとって曖昧で、難解です。

その時、主が私たちの心に満たしたいと望まれている光を簡単に断念し、反感を抱かせることはたやすいことです。私にとってそのような時、大きな助けとなるのは、かつて読んだことがある、ある著者の書かれた「無名の巡礼者」という本の中の言葉です。

〝もしあなたが、神の御言葉が解らないとしても、悪魔たちは、あなたが聖書を読んでいることを知って震えています〟

どうか、この言葉が私たちに聖書を読むことへの勧めとなり、神の御言葉がどんなに貴重で力強いものであるか悟ることができますように。

カトリック長崎大司教区ホームページ《英語版》がスタート

外国人信徒の方などに向けたページとしてこの7月15日から英語版を公開しています。今後、情報の内容を少しずつ増やす予定です。どうぞご利用ください。

http://www.nagasaki.catholic.jp/eng/

マリー・アスンタ 稲垣壽子修道女（至聖贖罪主女子修道会）

5月23日、長崎市の長崎腎病院で逝去。74歳。

東京都出身。1964年4月、長崎レデンプトリスチン修道院入会。67年3月15日有期誓願、72年12月8日終生誓願。

幼児が大好きだった彼女は、幼児教育の道に進み、資格を取ると間もなく、外務修道女として入会した。学校法人セレス

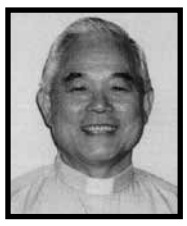
カタリナ・ゼノバ 山口キヨ子修道女（純心聖母会）

6月1日、長崎市の聖フランシスコ病院で逝去。84歳。

1933年長崎県生まれ。53年初誓願、62年終生誓願。初誓願後は大村、伊王島、神崎、浦上、町屋、浦和、八王子、広島で保母、調理士、カテキスタとして幼児教育に携わった。2003年から川内天辰修道院で、母親のような温かい心で食事作りに励み姉妹たちを支え続けた。神様のみ心を喜んで生きる場として奉仕する姿は、姉妹たちの模範だった。2月に進行性の脳腫瘍との診断で長崎に戻り、ホスピスで療養していた。奉献生活64年。

葬儀・告別式は3日、本部修道院で行われた。

ペトロ 七種照夫神父（神言修道会）



5月23日、名古屋第一赤十字病院でS状結腸がんのため逝去。82歳。

1935年4月23日長崎県生まれ。62年3月19日初誓願、65年3月19日終生誓願宣立。65年8月21日司祭叙階。司祭叙階後50年にわたり、東京（吉祥寺）、名古屋（南山・知立・五反城）、秋田各地において小教区司牧、またアーノルド小神学院、聖ルドヴィコ神学院において神学生養成に携わる。名古屋教区では長年社会福祉関係の活動に深く携わる。

葬儀・告別式は5月26日、五反城教会で神言修道会のジェブーラ・エウゲニウス日本管区長の司式により行われた。

ラファエラ 中堀ちづ修道女（純心聖母会）

6月2日、長崎市の三原台病院で逝去。88歳。

1928年鹿児島市生まれ。鹿児島純心学園で数学の教諭として勤務。54年入会。56年初誓願。66年終生誓願。

初誓願後は三原（広島）をはじめ数か所の事業所で宣教に励んだが、体が弱く入院生活も多かった。しかし、その場を自分の宣教の場と受け止め、弱い人、寂しく孤独な人々への関わりを大切にし、優しい人柄でたくさんの人を慰め続けた。2014年から長崎での4年間の入院生活を経て御父のもとに帰られた。

葬儀・告別式は5月5日、本部修道院で行われた。

マリア 岩﨑シヅカ修道女（お告げのマリア修道会）

6月3日、長崎市の聖マルコ園で逝去。87歳。

1930年長崎市生まれ。44年十字会に入会。60年初誓願、69年終生誓願。入会後、原爆に遭い、けがを負いながらも被爆した姉妹の救出にあたり、その後の十字会を支えた。聖婢姉妹会に統合後、院長として、会と地域の絆を深める役割と志願者養成に貢献した。その後修練院に赴任し、祈る姿と農耕で修練者を導いた。任務を終えてから十字修道院で調理を担当、「浦上そぼろ」が十八番だった。聖マルコ園で晩年を過ごし、多くの人に愛された生涯だった。

葬儀・告別式は4日、十字修道院で行われた。

山内清海神父連続講演会（第2回）

現代社会の間（はざま）に生きる――〝教育〟

社会に潜む現実的・具体的な問題を浮き彫りにしてその核心に迫り、正しい生き方を模索したいとの思いから連続講演会を企画しました。第2回の演題は『教育』です。

講師　山内清海（神学博士・哲学修士）
福岡サン・スルピス大神学院教授・院長、長崎純心大学教授・大学院教授、長崎大学非常勤講師などを歴任し、現在お告げのマリア修道会付き。長崎教区司祭。

日時　8月20日（日）14時30分～16時（14時開場）
場所　長崎市立図書館多目的ホール（興善町1-1）
入場料　無料
主催　ミカエル会
連絡先　095-862-1892（小畑）

白蟻調査無料・駆除予防工事5ケ年保証付
白蟻防除施工士
大田白蟻研究所
代表者　大島和彦
（〒850-0811）長崎市矢の平1丁目14番15号
☎長崎 095－822－8436（ハヨイロ）
FAX 095－822－8488

注文家具の店　家庭祭壇・聖具・祭壇・長椅子・朗読台
かおり
佳織木工所
kaori-mokkousho.com
《家庭祭壇ギャラリーOPEN　パンフレットもございます。》
〒857-0032 佐世保市宮田町7-7
☎0956（23）1867
代表 ラウラ・ビクーニア 濱口　佳織